



ル 2  
3274

漂浪之記  
豊西虫





門 2  
號 3274  
卷



漂流之記

魯西亞國漂流者之故事

沙比之帝中上下級之書

魯西亞國所子書

魯西亞國所子書

魯西亞國所子書



全書冊





陸府國之城郡川内船回給  
水考丸船以并水主

海崇

船以

長三万馬

三千四百本

海崇

水主

依助

二十九本

海崇

水主

角次

二十本







見へる西ウガク方位と先の西風は日一沖へ流  
し物さるる中司の相成南風はあこ  
ろあし海と和しきれば帆ヤカと揚るる  
事凡五日して少くも方へたれば支那  
船は好し流流たるかと思ふはほそに  
吹ゆされ物カキキの火は流よつすりる潮水は葉  
一白に几童中四ふ事とあつて水をたて茶碗  
一盞と飲へみし強と積亂とちのちやん

洋中へ流流し事一凡か月りのる病人  
の流るるもあつていふことしていふよあつたり  
あつたり人のみそ有るは午鹿と辛味よ  
海中に投へるる物もみそをの衣履  
或は流流しつゝ又いふと昔はあつて  
はつゝあつていふに流流しつゝあつて  
流流しつゝあつていふに流流しつゝあつて  
人ありつゝあつていふに流流しつゝあつて



運中事ありし事一凡此中及も一とあり  
ひふとせむかこもむとてふとてふとてふと  
之れはありて一降るはありてありてありて  
ヲ欲して漸次とてきり事と相中。一と事  
一自中口とて是れはありてありてありてあり  
水とありて水はありてありてありてありて  
隙とありてありてありてありてありてあり  
く。一好まは移ぬる事とて候中積入る

有今一難果ありて一積今を運流せりて  
東風ありてありてありてありてありてあり  
柱倒。一候もありてありてありてありてあり  
へ取るの候もありてありてありてありてあり  
角相凌回位し丑寅。一凡と相流りあり  
一和。一事ありてありてありてありてあり  
り方あり。一今北極雷雨。一とてありてあり  
及活帆。一活帆は方針。一とてありてあり



西より方へは全夜三時半にきりぬ  
例に海をよきとておぼりて海に  
てりふよ一統むらひ大なる所を  
まほひの海に向へて幅に長布御座  
お合おえありな有幣と上を居りお  
ふとあきまひたりる合おと書とて  
は亂濁のつれ何をも全救つて極  
只律律の如後のことを祈りおす

九月廿九日  
く地に地ふかき  
國といふま  
と得且候い精魂と  
也身のみ  
まは海國  
段よ暮か  
なる若間



卯旦と侍者の中へ夜中より丑寅のころ見え  
大風忽ち頻りに吹浪うらまありしを將より  
わきまゆりて水に相成り互に岨岨の岩  
根より分り人か岩上へ登りり角次女  
としてよおて櫃にけり衣をたぬ、櫛と後  
こねと使ひり岩角より一先揚人へおれ  
しらよみ大浪打東より舟しりて一日り  
岩上より打揚られ幸に衣をたぬ角次女

き余を助りし外の人かおれし侍者將也  
夜中よりせし初めりあ中の夜のゆると  
侍助余の人とよりし衣をたぬ角次女  
外より都令し人か急より外の人か  
と見ゆりし若狭間より衣をたぬ侍者  
溺死したる内法女ありし者か衣をたぬ侍  
り者なるとまぬ侍者ありし侍者か衣をたぬ侍  
子次初めり侍者ありし侍者か衣をたぬ侍







石トと昔分ちとありて河のいひは  
お移りしは名を居たりて林ちを金一  
破と申すは事と云揚を長布の衣と  
水と申すは事と云日中と云は事と  
午一節と相さし五日日と云は事と死  
之は方なる物と云人との事と云は事  
の事と神傳の行を事と云は事と云  
と云りりる事と云は事と云は事と云

あり無古月廿日ト云りて時と云は事  
此西と云は事と云は事と云は事  
と云は事と云は事と云は事と云は事  
五と云は事と云は事と云は事と云は事  
一通と云は事と云は事と云は事と云は事  
ありと云は事と云は事と云は事と云は事  
たしと云は事と云は事と云は事と云は事  
係と云は事と云は事と云は事と云は事







予の母の年九十の信を信守信守申候と  
畢の心は抑有る事と事なき事と抑  
を背負候事と遊道夜又女内ら  
列候中け利事と人若くも一多向候  
とあり日帝と若くも一申候候一抑若元  
之訓有け元と利事と夜止若候事と以  
而十日来以下事と人若くも一十三日信  
有一申候候事と人又申候有一多向候  
列候

予の母の年九十の信を信守信守申候と  
畢の心は抑有る事と事なき事と抑  
を背負候事と遊道夜又女内ら  
列候中け利事と人若くも一多向候  
とあり日帝と若くも一申候候一抑若元  
之訓有け元と利事と夜止若候事と以  
而十日来以下事と人若くも一十三日信  
有一申候候事と人又申候有一多向候  
列候



お訓はなやアフトリ婦はシロキセと云ふ  
ゴロウビントヤチ将は才通因事一有る也  
美成歌捕は徳今一も海は法と云  
レ教は是と有るはとや田は子一歌  
中懐りるは子相見かりるは形不美は  
在是也若き主アキニハ中由は形は  
中通しはなやた然一事はと自ら云  
了る也角次はなと云はと云は是れ

あるは事と云ふは使方一も此  
一はも成りはと云は書しは精妙は仕  
と美は是れ也相見は子り也と云は右ア  
フトリ婦はシロキセ田は子通事ありは列る  
父母は懐りるはと云は通自ら云  
是も云ふは事と云ふは事ありは事  
も是れ也言はしは訓は是れ也  
是れは事と云ふは事と云ふは事と云ふは事



早の十五日あり一ボロモシイとあるは遠のりや  
ガハニと申す所の幸あり振のは表をあらわ  
は役人ありは身なりや一有は東の青  
十日と先右ボロモシイと遠のり早のりは  
先右のり元教二十中有り同六月朔  
ガハニと申す所の幸あり一振のり  
はりの振のり及奥のり一乾肺のり  
雨のり一獲のりおのりもはりして作のり  
とあり一獲のり及奥のり一乾肺のり

とあり一獲のり及奥のり一乾肺のり  
一獲のり及奥のり一乾肺のり  
都のりハイメラトヤハ右のり一海國のり  
振のり及奥のり一乾肺のり  
はりの振のり及奥のり一乾肺のり  
るガハニと申す所の幸あり一振のり  
役人のりおのりもはりして作のり  
る列戦のり元教二十中有り同六月朔







抑九陽は不何の事とあり海は海は其西は  
口こや回生用一奥たはし形は川今たは美記  
りぬ取らんこ日ボワレカと中教共  
信の村は其第二日序在ボワレカも三河川  
よりアバアキヤと中家五ら新しの中  
第一夜序在四川冬二日月二十十イカ  
一家は六のりあり村一第一夜序在まる  
二日渡地くこころマカと中教拾り信

村一着しはとて中家一は三日序在  
あふ外一は一日のり川下村アワ  
千ヤと中教拾り信あり一布一第一夜止  
名ぬ三日少知よて陸内二日相也すが二  
アロこや回生用一奥たはし形は川今たは美記  
何人ヲんタ今フと中家一列戦在夜  
人より中家一は一日のり川下村アワ  
流へ安王城の石中も雲井中事及た元



日ありて是より後事なること一  
中世を以て合意ありては其の  
まてありては相傳へたる  
初より相傳へたるは  
成りたるは其の  
及至るは其の  
中世ありては其の  
中世ありては其の

中世ありては其の  
初より相傳へたるは  
成りたるは其の  
及至るは其の  
中世ありては其の  
中世ありては其の  
初より相傳へたるは  
成りたるは其の  
及至るは其の  
中世ありては其の



家作の又が二三つして之を教之  
百軒ほど有る相見の也二三階三階  
の家作の有る意の初より之を結構  
相見の也二三つして之を教之  
下の上ら相見の也二三つして之を  
石積の也二三つして之を教之  
上上上上上上上上上上上上上上上上  
獲生して存する様者中身有る也

中一階あるはの也 順風相見の也  
月十日以下之也 帆の月月初相見の也  
上上上上上上上上上上上上上上上上  
一七日信の相見の也 帆の月月初相見の也  
又一上上上上上上上上上上上上上上上上  
カニ二階の也 帆の月月初相見の也  
上上上上上上上上上上上上上上上上



イキルス形人ら助多る形相書事と云  
我回若度名頼おのれに照らすは回若仕  
ふまよの月あしを年午未の形相  
月如ほしんお清の月未の形相  
とくだきい形相お既仕照洋申と云  
足州一者しん相果あすの回若月功  
上は口つあ沖まきまの形相  
形相お相まきしんあす水年と云

相成りるヲホツカ清、午未の形相  
しんお形以て我相使再と云  
りあ列の形多大地の形  
り月相おくれり清の形  
相相りあ清の形  
但存これ附申述上ト口つ志し  
形相お午未の形上ト口つ志し  
ウ九ウト口つ志し



















そは常々申す中へ有用なる御成  
ありしに一回、その成り上り御成り有る  
名御成りなる御成り、其の御成り有る  
名御成りなる御成り

一 貴方御成りなる御成り、御成りなる御成り  
は、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り

仕潤漸く、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り

一 かの二、大湊、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り  
御成りなる御成り、御成りなる御成り、御成りなる御成り











一牛馬の糞を山に投じて牛馬の糞用を成し  
かた大家の者一日に千石位の糞を食用に仕  
馬を飼ふ事何れに率来り糞を食ふ事  
地へ糞を別る運者糞はたか  
一田中馬を伐つたところの家には何れに廿五  
カハル一カハル糞首一石中杯右廿五カハル

通分は右大田中の大子に糞を食ふ事  
ちり田中糞の糞を投じて何れに糞を食ふ事

糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事  
糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事  
糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事  
糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事

一列の糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事  
糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事  
糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事  
糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事  
糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事糞を食ふ事



一 役人ヲルタコフ 杯裳未ハ 糸巾世ハ 法月衣物  
 何ハ 初製成ニ 匠所持 金工權ハ 示物 互友ハ  
 仕立登リ 且ハ 拾列 初遠ニ 匠所  
 一 武田器持ハ 石方夫 子湯抱ニ 外石一 異物一 劍  
 常シ 舟行也 且ハ 舟中 未友ハ 一切 見及 舟中

魯西亞船ヨリ 送來ハ 尾洲 船子丸 船以  
 水主申口子

尾洲國名 舟所  
 出船 尾洲 船子丸  
 積船 尾洲 船以

長布島  
 水主  
 音 音  
 子三十一 年



一長右邊中上日新成生國及後國知田部十高  
村百姓之宗名于一代一門徒字之り成り十三年  
く可なる和宗高貴仕をん文化する年智宗凡  
和以役相功同年十月及後和以天也也未  
兼清高用和種入く教拾四く全復同那  
師崎和帆仕江く妻和成右り未和能く外  
種高和貴拂同月下旬江く和帆仕更より  
伊之の子浦初繁り霜月四日初和帆同四

て仕事有ぬ世實く和清夜く入道別仲く  
水主とく和方高く又晴夜中く救方佐茂  
和清高和子建和和切高く院高和り三夜  
ふり高和く和成高く一高下和和り清高和  
和その仲高和交同高和同高浦清高凡高  
中高仲高和和和和和和和和和和和和和  
四七高和和和和和和和和和和和和和和  
和和和和和和和和和和和和和和和和和



予有之と云夜切なるに汝方夜を以て  
代遊し南仲下流に一と後山一と相見  
海ありて舟は度より天出帆し帝未ハ  
中入七儀積入り中一と一第大百七百儀中  
外諸道奥中積入食物可なり是より一  
舟一同中今日一と一海に仕込舟りたて未ハ相見  
戊午二月切修は世その後と後一と一初中  
修り又四月分船中困状度甚し切と折悉及

水一雨降降りあり一潮り甚き傷甚  
九修用仕相凌少ぬ三月以て船中一病  
相成り有る七月迄一舟一船中一人死仕後  
三人病と相助り子と一ぬ八月相成る雨降  
り月雨火と九行修用仕相助り矣と物り  
如種一の莫は山一物り月是り食用仕如  
又いほ何國一仲一と座あり可る飯氣と好飲  
深牙相成り今相成りる夜中一と一



事ハ一向ニ在リ日中ニ一擲ニ上ルル事

雅相成信ノ書集ニ在リ世々一ハ仲今ニ暮

一ハ者遂ニ治山又ハ航形ニ在リ

聖元二年二月十日 丁未年正月十日 是日也

付因ノ仲今ニ在リ本橋ニ帆救條多掛

大船ニ被西ノ東ニ方ニ航通ルニ由法ニ同

凡三里中茂可有ニ一電キ成揚々矣又右船

まきノ航形一近者ノ舟助ニ是日中ニ在

相ノ言及一向通一有ニ一航形格也

下ケル教立人ニ在リ然レ舟助也

舟助ケ是ノ在リ形在リ何相ニ在リ

先相ノ一書所中ニ在リ舟助ニ在リ

捨尼浮瓜ノ如クニ南ノ舟助ニ在リ

異國ノ舟助ニ在リ舟助ニ在リ

右船ニ在リ舟助ニ在リ舟助ニ在リ

夫ノ舟抱仁橋也舟助ニ在リ舟助ニ在リ



島又田島國人大船一艘中松中あり者可  
有し下舟船屋並に城守禦は由りし  
舟中船主のりしは奥舟のりし船主なりし  
千後何方より船は渡りし底色し相尋りぬ  
漸しラシタント中下船ドシテ伊丹利斯の  
し船中舟相分りし船主右教凡千五百  
石も積りし船は右名ありし船主なりし者  
物書しし人水主計十人外船師ありし者

多人教子船にありし右ベゲツありし船主  
し船主なりし船主なりし言はしし船主なりし  
し船主ありし船主ありし言はしし船主なりし  
船主ありし船主ありし言はしし船主なりし  
皮船十四艘ありし右船師ありし者ありし  
し船主ありし船主ありし言はしし船主なりし  
右船師ありし船主ありし言はしし船主なりし  
し船主ありし船主ありし言はしし船主なりし















才致了著悉同人ふと丸法中より下る地  
恒若く夫人多る氣中成者ふ時丸妾仕居  
るバラノフ原より門と三守に相搦昔人義成  
發相守居る子同人若く奥深く搦常  
徳地跡原玉也言中は原凡げ下る午日也  
通る江内元好の澄雨の表の上は皮取し  
交易はり思ふも捕師知皮をいけ山元好積  
入ヤトまふヲホウツカへも成り也とい新か帆仕

此海日四日目に別カムチワカし侍と見  
掛り此千部煙霧日深く煙霧の時なる  
風あゝ相成遂にラホウツカへるなる侍  
美辛一月十五日に原は原カムチワカ  
湊カワントヤ也入好侍

ベトロバウロウスコイ一候に原  
世新の底和昔上陸は仕船中一と在る丸當  
雨役入ルタコフと一者一方か相回五度と地是



相成流河人中國より高年より日本人今人  
可なり相三日日本へ送る時一はるる事なり  
毛成り其元後日本日送る道一はるる必  
心能なり申る事申す同り然るに九月  
中旬に成相成すはウツカノ帰帆に有る  
右元日本人送る物なり其下は皆也  
まはるる我れは言風志あり上人上座あり故  
に海より望む有る日本へ封筒に  
下任上座住如言事一はるる合薩摩形人

はるる由承し一回信表は信板子信り程事上  
信あり及右薩州一人上向右住り如形夫共事  
海より望むる右ラシタニ一はるる美事なり  
はるる身なり一はるる合は薩摩の所内一はるる  
和共失事暮西更一方はるる抜日帝は一はるる  
カム千アツカ没人といルコウツカ没人まはるる  
はるる日本は美事相付あり



























圖書印

3



圖書印

圖書印

圖書印

勝保氏の印書

3

文化女子<sup>丙</sup>三年七月

好

長右馬

水主

音音



圖書印



大日本九州

厚之應國之城郡之内船河島ヨリ

シリツピン郡島ヨリ

伊斯把尼亞

魚目西亞漂流